

議事要旨

会議名称	第6回 杉並区荻窪駅周辺総合交通戦略連絡協議会
日時	平成30年10月30日（火）15：00～17：00
場所	杉並区役所中棟5階第3・4委員会室
出席者	<p>【構成員】</p> <p>■学識経験者 大沢氏、高見澤氏、関口氏</p> <p>■交通事業者 東日本旅客鉄道株式会社、東京地下鉄株式会社、関東バス株式会社、西武バス株式会社（代理出席）、一般社団法人東京ハイヤー・タクシー協会（代理出席）、公益財団法人東京タクシーセンター、一般社団法人東京都個人タクシー協会</p> <p>■関係行政機関 警視庁交通規制課都市交通管理室長、警視庁荻窪警察署交通課長、東京都都市整備局都市基盤部交通企画課長（代理出席）、東京都第三建設事務所管理課長、東京都第三建設事務所補修課長</p> <p>■杉並区 政策経営部企画課長（代理出席）、区民生活部副参事（荻窪地域担当）、まちづくり担当部長、土木担当部長、都市企画担当課長（交通施策担当課長兼務）、都市整備部副参事（荻窪地区まちづくり担当）、市街地整備課長、拠点整備担当課長、土木管理課長、土木計画課長、みどり施策担当課長、杉並土木事務所長</p> <p>【事務局】 杉並区都市整備部市街地整備課拠点整備担当</p>
配布資料	<p>資料1 議事要旨（第5回 杉並区荻窪駅周辺総合交通戦略連絡協議会）</p> <p>資料2 とりまとめ（案）</p> <p>資料3 概要版</p> <p>資料4 策定・公表までのスケジュール</p>
会議次第	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>（1）とりまとめ（案）</p> <p>（2）策定・公表までのスケジュール</p> <p>（3）交通戦略の名称</p> <p>（4）今後の連絡協議会</p> <p>（5）情報交換・意見交換</p> <p>（6）その他</p> <p>3. 閉会</p>

<議事概要>

(1) とりまとめ(案)

事務局より、とりまとめ(案)ならびに概要版について説明後、意見交換を行った。

【構成員からの意見】

- ・評価指標について、この3つを採用した理由及び目標値設定の考え方について、簡単な説明を加えてはどうか。
- ・駅の乗降人員を評価指標として採用した考え方として、交通戦略に位置づけられた施策を実施することで、定住人口や、来街者などの交流人口が増えることが期待でき、その結果、荻窪駅の乗降人員が増加するという主旨を記載してはどうか。
- ・推進管理体制について、交通戦略を策定するまでと、策定後の体制・役割が分かるようにするために、「杉並区荻窪駅周辺総合交通戦略連絡協議会」が、交通戦略策定後も、推進管理体制の一部として継続的に開催されていくということが伝わるように、記載の充実化を検討いただきたい。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック協議大会の開催を迎えることで、東京はより一層国際化が進展していくことと思う。杉並区においても、外国人旅行者や外国人居住者が増えると考えられる。国際化への対応については記載を充実してはどうか。

(2) 策定・公表までのスケジュール

事務局より、策定・公表までのスケジュールについて説明後、意見交換を行った。また、策定後、交通戦略の推進時における要望について、意見交換を行った。

【構成員からの意見】

- ・最終案の作成にあたり、区民等からの意見について、各事業者等と調整が必要なものの以外は、その取り扱いを学識経験者と事務局に一任することについて、そのようにしたいと考える。
- ・交通戦略をはじめとする行政計画には「賞味期限」がある。策定後も、4～5年後程度の適切な時期に見直しを図っていただきたい。
- ・鉄道事業者としては、交通戦略に位置づけられた施策について、何をどのように事業化するのかといった来年度以降の分科会での議論が重要であると認識している。区には引き続き、できるだけ早い情報提供と関係者間の調整をお願いしたい。
- ・デジタル技術の進歩は日進月歩であり、時代の最先端の技術を活用しようとする費用が大きくなるのが懸念される。費用の観点も含め、求める成果が得られやすい方法・時期を見極めてもらいたい。
- ・休憩ができ、人が直接観光案内などをしてくれるアナログな空間も重要であると考えている。デジタルサイネージ等を活用した案内板の設置に加えて、これらの取組についても並行して取組んでいただきたい。
- ・環八通り地下通路における環境改善について、どのような点が改善されれば利用者満足度が向上するか、利用者への意向調査などを通じて把握してはどうか。

- ・自転車利用者のマナー向上はもちろん重要であるが、自動車と自転車との共存を図るための道路整備をお願いしたい。
- ・北口駅前広場の検討の際には、青梅街道上に設置されているバスのりばを、北口駅前広場内に収容できるようにしていただきたい。
- ・バスのりばについて、バスを待つ際にも心地よく楽しく過ごせるような空間づくりを期待したい。
- ・自転車利用者のマナーについては、警察や行政による取組だけでは限界があると思うため、地域の方々が主体的に、自転車の正しい使い方について考えていくような取組ができればよい。
- ・荷捌き車両をはじめとする路上駐車対策について、道路空間だけで対応することは困難である。道路が適切に機能するように、まちづくり施策と合わせた駐車対策を図っていただきたい。
- ・既往の都市開発プロジェクトでは、事業を進める過程で交通対策の検討を始めることが多かった。そのため、都市開発プロジェクトによって、交通機能が低下するような事態が発生するケースもある。都市開発プロジェクトを検討していく段階から、都市側に求められる交通の役割についても整理し、提示していけるとよい。

(3) 交通戦略の名称

事務局より、交通戦略の名称について説明後、意見交換を行った。

【構成員からの意見】

- ・「荻窪駅周辺都市」における「総合交通戦略」と誤読されることが懸念される。「荻窪駅周辺」と「都市総合交通戦略」との間に半角スペースなどを入れてはどうか。
- ・副題を付けた意図について、「はじめに」で記載してはどうか。
- ・交通戦略の上位計画は、「荻窪駅周辺まちづくり方針」である。この方針を受けて、交通戦略を策定していることを鑑みると、「都市」と表記するよりも、「まちづくり」と表記し、「荻窪駅周辺まちづくり総合交通戦略」とすることも考えられる。
- ・名称については、策定主体である区に一任したいと考える。

(4) 今後の連絡協議会

事務局より、今後の連絡協議会について説明を行った。

(5) 情報交換・意見交換

構成員、事務局より、荻窪駅周辺に関する取組や交通戦略に関連する取組について、情報提供等を行った。

(6) その他

- ・今回の会議の内容に関するご意見は、12月19日（月）までに電話・メール等にて事務局宛に連絡をいただく。
- ・次回の第7回連絡協議会は、来年度7月下旬から8月上旬に開催したいと考えている。日時・場所については、改めてお知らせする。

以上